

令 和 元 年 度

枚方京田辺環境施設組合
決算審査意見書

枚方京田辺環境施設組合監査委員

目次

第 1. 審査の対象	2
第 2. 審査の期間	2
第 3. 審査の方法	2
第 4. 審査の結果	2
第 5. 決算の概要	3
1. 決算の状況	3
2. 歳入	4
3. 歳出	6
4. 財産の状況	8
第 6. 意見	8

(凡例)

1. 文中及び各表中の金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満を四捨五入（歳入は切り捨て）して表示したため、総数と内訳等が一致しない場合がある。
2. 文中及び各表中の比率は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで表示したため、合計と内訳の比率が一致しない場合がある。
3. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「-」 比較不能、不用のもの又は該当数値のないものを示す
「△」 負数を示し、増減を示すときは減を示す

枚京監第15号
令和2年(2020年)9月25日

枚方京田辺環境施設組合
管理者 上村 崇 様

枚方京田辺環境施設組合
監査委員 分林 義一
監査委員 上野 尚子

令和元年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算審査
意見書の提出について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された、令和元年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算書その他政令で定める書類を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出する。

第1. 審査の対象

令和元年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算
令和元度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算事項別明細書
令和元年度枚方京田辺環境施設組合一般会計実質収支に関する調書
令和元年度枚方京田辺環境施設組合財産に関する調書

第2. 審査の期間

令和2年9月4日から令和2年9月25日まで

第3. 審査の方法

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されているか、計数の正確性、事務処理の適否、予算執行状況等について検討するため、関係諸帳簿を照合し、また、関係職員から説明を受け審査を行った。

第4. 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、決算の計数は、関係諸帳簿と符合して正確であると認められた。また予算執行及び事務処理についても、例月現金出納検査・定期監査を通じて検査・監査した結果、おおむね良好に処理されていた。

第5. 決算の概要

1. 決算の状況

令和元年度の決算額は、予算現額1億6,311万7千円に対して

歳入 1億3,870万3千円

歳出 1億3,852万9千円

となっており、前年度に比べ、歳入で8,933万3千円(39.2%)減少し、歳出で8,920万8千円(39.2%)減少している。

歳入歳出差引き(形式収支)、実質収支とともに17万4千円の黒字となっており、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は12万6千円の赤字となっている。

歳入歳出決算状況は、次表のとおりである。

歳入歳出決算状況

(単位：千円、%)

区分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
予算現額	163,117	248,702	△85,585	△34.4
歳入決算額 (A)	138,703	228,037	△89,333	△39.2
歳出決算額 (B)	138,529	227,737	△89,208	△39.2
歳入歳出差引額(形式収支額) (A) - (B) (C)	174	300	△126	△41.9
翌年度へ繰り越すべき財源 (D)	0	0	0	0
実質収支額 (C) - (D) (E)	174	300	△126	△41.9
前年度実質収支額 (F)	300	10,463	△10,163	△97.1
単年度収支額 (E) - (F)	△126	△10,163	10,037	98.8

2. 歳入

(1) 歳入の概要

決算額は1億3,870万3千円で、予算現額1億6,311万7千円に対して2,441万3千円の減となり、執行率は85.0%である。また、調定額1億3,870万3千円に対する収入率は100.0%である。

決算額を前年度と比較すると8,933万3千円(39.2%)減少している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

(単位：千円、%)

款	令和元年度				平成30年度		対前年度比較 (収入済額)	
	調定額	収入済額	収入率	構成比	収入済額	構成比	増減額	増減率
分担金 及び 負担金	138,403	138,403	100.0	99.8	177,624	77.9	△39,221	△22.1
国庫 支出金	0	0	0.0	0.0	39,950	17.5	△39,950	△100
諸収入	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰越金	300	300	100.0	0.2	10,463	4.6	△10,163	△97.1
合計	138,703	138,703	100.0	100.0	228,037	100.0	△89,333	△39.2

※収入率・・・収入済額/調定額(以下同じ)

※構成比・・・収入済額合計に占める比率

(2) 歳入の収入状況

歳入の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 分担金及び負担金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
162,815	138,403	138,403	0	0	100.0

収入済額は1億3,840万3千円で、前年度に比べ3,922万1千円(22.1%)減少している。内容としては、構成市からの負担金収入である。

2 款 国庫支出金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
0	0	0	0	0	0.0

環境省からの交付金がなかったため、前年度に比べ3,995万円(△100.0%)減少している。

3 款 諸収入

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
2	0	0	0	0	0.0

4 款 繰越金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
300	300	300	0	0	100.0

収入済額は30万円で、前年度に比べ1,016万3千円(97.1%)減少している。

3. 歳出

(1) 歳出の概要

決算額は1億3,852万9千円で、予算現額1億6,311万7千円に対して2,458万8千円の減となり、執行率は84.9%である。

決算額を前年度と比較すると8,920万8千円(39.2%)減少している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

(単位：千円、%)

款	令和元年度		平成30年度		対前年度比較 (支出済額)	
	支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
議会費	312	0.2	284	0.1	28	9.9
総務費	101,641	73.4	116,235	51.0	△14,594	△12.6
衛生費	36,577	26.4	111,218	48.8	△74,641	△67.1
予備費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	138,529	100.0	227,737	100.0	△89,208	△39.2

(2) 歳出の性質別経費の状況

性質別に経費を分類すると、次表のとおりである。

(単位：千円、%)

区分		令和元年度		平成30年度		対前年度比較 (支出済額)	
		支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
義務的 経費	人件費	249	0.2	237	0.1	12	5.1
その他 経費	物件費	39,942	28.8	114,792	50.4	△74,850	65.2
	補助費等	98,338	71.0	112,708	49.5	△14,370	△12.7
合計		138,529	100.0	227,737	100.0	△89,208	△39.2

※性質別分類区分

人件費 ・・・ 報酬、災害補償費

物件費 ・・・ 旅費、交際費、需用費、

役務費（自動車損害保険料を除く。）

委託料、使用料及び賃借料、備品購入費

補助費等 ・・・ 報償費（報償金）、役務費（自動車損害保険料）、

負担金、補助及び交付金

(3) 岁出の執行状況

歳出の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 議会費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
422	312	0	110	73.9

支出済額は31万2千円で、前年度に比べ2万8千円(9.9%)増加している。

不用額は11万円で、執行率は73.9%となっている。

2 款 総務費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
108,139	101,641	0	6,498	94.0

支出済額は1億164万1千円で、前年度に比べ1,459万4千円(12.6%)減少している。この主な要因としては、派遣職員の給与費等負担金などが減少したことによるものである。

不用額は649万8千円で、執行率は94.0%となっている。

3 款 衛生費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
53,556	36,577	0	16,979	68.3

支出済額は3,657万7千円で、前年度に比べ7,464万1千円(67.1%)減少している。この主な要因としては、環境影響評価業務等に係る委託料などが減少したことによるものである。

不用額は1,697万9千円で、執行率は68.3%となっている。

4 款 予備費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
1,000	0	0	1,000	0

4. 財産の状況

(1) 公有財産（土地・建物）

該当なし

(2) 物品（取得価格又は評価額が50万円以上の備品）

区分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
財務会計システムハードウェア	1	0	1

(3) 債券

該当なし

(4) 基金

該当なし

第6. 意見

令和元年度の決算額は、歳入は1億3,870万3千円で、前年度に比べ8,933万3千円(39.2%)減少し、歳出は1億3,852万9千円で、前年度に比べ8,920万8千円(39.2%)減少している。

歳入歳出差引き（形式収支）、実質収支とともに17万4千円の黒字となっているものの、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は12万6千円の赤字で、前年度に引き続き赤字となっている。

赤字となった要因は、構成市の負担を軽減するため、極力、余剰金を出さないという方針のもとで、きめ細やかで、的確な予算執行に取り組まれた結果である。

令和元年度の決算額では、歳入歳出ともに前年度比で39.2%の大幅な減少となっている。これは、環境影響評価において、希少種であるオオタカの営巣が確認されたことから、オオタカへの影響を軽減するために事業スケジュールの見直しが行われ、次年度に事業が繰り越されたことが大きく影響している。

環境影響評価も、令和2年度で手続きを終了する予定であり、施設整備に向けた取り組みが、より本格的に進められることとなる。

引き続き、効率的かつ効果的に事務事業を進めていくため、次の点に留意して取り組まれるよう要望する。

- ① 事務事業の執行については、今後も国庫補助金等の確保を図るとともに、経費節減に取り組まれ、より一層効率的・効果的な財政運営に努めること。
- ② 令和元年度には大きな入札・契約事務は発生しなかったが、今後、施設

の建設・運営事業者の選定業務を行っていくことから、より一層の事務の透明性、公平性、公正性及び競争性の確保に努めること。

- ③ 事務事業の実施にあたっては、引き続き透明性と説明責任を図り、両市の市民等に対し、適切な情報提供に努めること。
- ④ 予算編成にあたっては、事業の精査を十分行い、適切な予算措置に努めること。